

事業所名 ※ グループホーム 星の家

日付 平成 21 年 9 月 25 日

評価機関名 有限会社 アウルメディカルサービス

評価調査員: 健康運動指導士
実務経験10年以上

ホームヘルパー2級
実務経験3年以上

自主評価結果を見る (評価内容と一緒に添付しています。)

評価項目の内容を見る ※

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!) ※

1. 評価結果の概要

講評
全体を通して(特に良いと思われる点など)
(記述式)

田園の中に住宅が散在する静かな地域で入居者は落ち着いた生活をしている。三つある各ユニットは入居者の生活パターンに合わせて対応を少しずつ変えていて、職員は、どの入居者の性格もよく理解したうえで入居者一人ひとりに寄り添うようにケアしている。職員は、職員間での話し合いや意見交換に熱心で、入居者が自宅と同じように安心して生活できるように、互いに協力していこうという姿勢がうかがえる。静かな環境と温かい雰囲気の中で、どの入居者ものびのびと居心地よく過ごしていた。

特に改善の余地があると思われる点(記述式)

ユニットの中のひとつは台所の構造上、窓はあるが、リビングが死角になっているため、台所で食事やお茶の用をしている職員からリビングに居る入居者が見えにくくなっているように思う。交替時に職員が一人になるときなどは特に注意が必要で、鏡を設置するなど見守りが疎かにならない工夫がほしい。

2. 評価結果(詳細)

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	具体化、実現及び共有	○	
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
記述回答	入居者一人ひとりの個性を大切に、特徴を理解し、入居者がその人らしく暮らせる利用者本位のグループホームをめざしている。		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り	○	
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり	○	
4	建物の外回りや空間の活用	○	
5	場所間違い等の防止策	○	
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
記述回答	ユニット毎に月一回ケースカンファレンスを行い、職員は其々の入居者の個性を尊重した対応を心がけ、接するようになっている。入居者の自然な意欲を大切にしており、自ら何かしたいという気持ちが生じたときは、色鉛筆での描画、洗濯物のかたづけの手伝いなど職員は見守りに徹して支援することで、入居者の希望に沿った生活に近づけている。		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮	○	
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援	○	
20	プライドを大切にした整容の支援	○	
21	安眠の支援	○	
22	金銭管理と買い物の支援	○	
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保	○	
24	身体機能の維持	○	
25	トラブルへの対応	○	
26	口腔内の清潔保持	○	
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応	○	
28	服薬の支援	○	
29	ホームに閉じこもらない生活の支援	○	
30	家族の訪問支援	○	
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
記述回答	職員はそれぞれの入居者の個性を大切に、入居者の性格に応じた助言や介護をするように努めている。家族が訪問したときは入居者と居室に入って話ができる。入居者の氏名や生年月日などの個人情報他人に見えるところには掲示しないようにしてプライバシーを守っている。		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映	○	
7	個別の記録	○	
8	確実な申し送り・情報伝達	○	
9	チームケアのための会議	○	
10	入居者一人ひとりの尊重	○	
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ	○	
12	入居者のペースの尊重	○	
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援	○	
14	一人でできることへの配慮	○	
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫	○	
16	食事を楽しむことのできる支援	○	
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援	○	
31	責任者の協働と職員の意見の反映	○	
32	災害対策	○	
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ	○	
34	家族への日常の様子に関する情報提供	○	
35	運営推進会議を活かした取組	○	
36	地域との連携と交流促進	○	
37	ホーム機能の地域への還元	○	
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か		
記述回答	3カ所の事業所が合同で毎月勉強会を継続している。また、グループホーム協会主催の研修会などにも職員の参加を勧奨している。夜間は職員が少ないので、家族の承諾を得て、寝具の一部に鈴を付けさせてもらい、入居者の動きを察知するように努力している。		